

中古音: 聲母

k5	k 見	kh 溪	g {匣, 喻云, 喻以 ^w }	gh 群	ŋ 疑
t	{端, 知, 照章}	th {透, 徹, 穿昌}	d {定, 澄, 喻以}	dh 禪 _l	n {泥, 娘, 日}
t13	s {心, 審生}	sh 審書 三	x 邪 _l 三	xh 牀船 [†]	l 來
c	{精, 照莊}	ch {清母, 穿初}	z {從 [†] , 牀崇}		
p4	p {幫, (非)}	ph {滂, (敷)}	b {並, (奉)}		m {明, (微母)}
q2	∅ 影	h 曉			

中古音: 四聲

V	平	上	去	去	入
i	in, id	ín, íd	ìn, ìd		it
y	yn, yd	ýn, ýd	ỳn, ỳd		yt
u	un, ud	ún, úd	ùn, ùd		ut
e	en, ed	én, éd	èn, èd	èt	et
a	an, a	án, á	àn, à	àt	at
o	on, od, o	ón, ód, ó	òn, òd, ò	òt	ot

影は聲母が無い状態とみなす。

g は y を持つ綴りが接続すると 喻云 を担う。

t, th, d, n は i を持つ綴りが接続すると 照章, 穿昌, 喻以, 日 を担う。ただし、有標な綴りとして g も同じ条件で 喻以 を担うとみなし、合口の清韻, 昔の綴り wien, wick は d ではなく g に接続させる。

喻以, 禪, 邪, 牀船 は漢字数の比や聲母同士の関係などを基にしたが、禪を xh に、牀船を dh に担わせるべきかも知れない。唐代長安方言では禪と牀船、邪と從が合流する。cf. 梵語音訳“禪”, 越南漢字音

審書, 邪や群, 禪, 牀船には三等韻が接続する。

t, th, d, n; s; c, ch, z は二等韻の綴りや y を持つ綴りが接続すると 知, 徹, 澄, 娘; 審生; 照莊, 穿初, 牀崇 を担う。廣韻での反切上字「牀」の字音から、俟母は 牀崇 とみなす。娘 は泥として扱われることもある。

輕唇音の発生以降、p, ph, b, m は yu, yu; ya, yo の何れかを持つ綴りが接続すると 非, 敷, 奉, 微母 を担う。ただし、m は 東三, 屋三; 尤の綴り yuŋ, yuk; yug が接続すると 微母 ではなく 明 を担い、これらの y を黙字にする。

Tyuy Kág Ym: Shien-múg

Vatanabe Takàjuki @Segsyoxafu 2022-06-07

註 末尾が他の子音字の場合も同様とする。

Tyuy Kág Ym: Sid Shien

Vatanabe Takàjuki
@Segsyoxafu 2022-06-07

中古音: 韻母

等	母音字列	...n, ...t	...ŋ, ...k	...m, ...p	...d	...g	...w	
三	V	i	臻 {真 ^(A) , 諄 ^A } in, {質 ^(A) , 術 ^A } it		深 侵 ^(A) im, 緝 ^(A) ip	止 脂 ^(A) id	流 幽 ^(A) iw	
		y	臻 {真 ^(B) , 臻 ^B , 諄 ^B } yn, {質 ^(B) , 櫛 ^B , 術 ^B } yt	p ⁴ , w 曾 蒸 yn, 職 yk	深 侵 ^(B) ym, 緝 ^(B) yp	止 脂 ^(B) yd	流 幽 ^(B) yw	
一	V	u	臻 {痕, 魂} un, 沒 ut	曾 登 un, 德 uk	咸 覃 um, 合韻 up	蟹 灰 ud	蟹 哈 ug	
		u	t13 合 臻 魂 un, 沒 ut	通 東 ⁻ un, 屋 ⁻ uk		t13 合 蟹 灰 ud	流 侯 ug	
三	vV	iu/yur	臻 {欣, 文} yun, {迄, 物} yut	曾 蒸 iun/yun, 職 iurk/yurk	咸 凡 yurm, 乏 yurp	止 微韻 yud	止 之 iurg/yurg	
		iu/yu	t13 合 臻 諄 iun/yun, 術 iut/yut	通 東 ^三 iun/yun, 屋 ^三 iuk/yuk		t13 合 止 脂 iud/yud	流 尤 iug/yug	
四	V	e	山 先 en, 屑 et	梗 青 en, 錫 ek	咸 添 em, 帖 ep	蟹 齊 ed	效 蕭 ew	
		a	山, 蟹 {寒, 桓} an, {曷, 末, 泰} at	宕 唐 an, 鐸 ak	咸 談 am, 盍 ap	果 {歌, 戈 ⁻ } a	通 模 ag	效 豪 aw
		o	t13 合 山, 蟹 桓 on, {末, 泰} ot	通 冬 on, 沃 ok		t13 合 果 戈 ⁻ o		
三	vV	ie	山, 蟹 仙 ^(A) ien, {薛 ^(A) , 祭 ^(A) } iet	梗 清韻 ien, 昔 iek	咸 鹽 ^(A) iem, 葉 ^(A) iep	止 支 ^(A) ied	效 宵 ^(A) iew	
		ye	山, 蟹 仙 ^(B) yen, {薛 ^(B) , 祭 ^(B) } yet	梗 {清韻, 庚 ^三 } yen, {昔, 陌 ^三 } yek	咸 鹽 ^(B) yem, 葉 ^(B) yep	止 支 ^(B) yed	效 宵 ^(B) yew	
		ia/ya	臻山, 蟹 止 元 yan, {月, 廢} yat	宕 陽 ian/yan, 藥 iak/yak	咸 嚴 yam, 業 (iap)/yap	果 穿 戈 ^三 (ia)/ya	通 {魚, 虞} iag/yag	
		io/yo	t13 合 山, 蟹 仙 ion/yon, {薛, 祭} iot/yot	通 鍾 ion/yon, 燭 iok/yok		t13 合 止 支 iod/yod	t13 合 通 虞 iog/yog	
二	V	ure	山 山 uen, 黠 uret	梗 耕 uen, 麥 urek	咸 咸 uem, 洽 urep	蟹 皆 ued	蟹 佳 ureg	效 肴 urew
		ura	山, 蟹 刪 uran, {鎋, 夬} urat	梗 庚 ^二 uran, 陌 ^二 urak	咸 銜 uram, 狎 urap		假 麻 ^二 ura	
		uro	t13 合 山, 蟹 刪 uron, {鎋, 夬} urot	江 江 uroŋ, 覺 urok			t13 合 假 麻 ^二 uro	
三	vvV	iura				假 麻 ^三 iura		

註

戈^三には平聲しか無い。去聲専用韻 泰, 祭, 廢, 夬 は ...t の去聲とみなす。cf. 梵語音訳「貝多羅」, {端, 知, 照章}

緑枠内の綴りは開口の韻母 (沒の一部や魚を含む) を担う。対応する合口の韻母 (虞を含む) は、p4 では開口の綴りが、k5, q2 では開口の綴りの直前に子音字 w を加えて得られる綴りが、t13 では u, o を持つ綴りが担う。cf. 日本漢字音

去聲専用韻による場合を除き、複数の攝が一つの欄に同居することの無い様にした。元, 月 は、廣韻では臻攝、韻鏡や七音略では山攝とみなし得る。廢 は、廣韻では蟹攝、韻鏡では止攝、七音略では蟹攝と止攝の両方とみなし得る。

d, g と違って b には半母音的な音価の保証となる聲母が無い為、...b ではなく ...w とした。

一般的に推定される音声、聲母としての d の音価、文字の有無の機能負担量から、果攝や假攝の綴りの末尾に想定される d 及びそれと同音価の g を黙字とみなし、中古音以降の体系に於いて最初から音価を持たない文字として脱落させた。cf. 喻以, 喻云, 匣, 遇攝, 宕攝, 通攝, 流攝, 明

t13 では漢字数から i を、p4 や k5, q2 では漢字数や韻圖での等位から y を三等韻の綴りに於ける最初の母音字として無標とみなす。青色の欄の綴りは t13 に接続することが殆ど無い。

[香幽反] と [許彪反] の対立の無い廣韻以降を記述対象とすることで、幽の綴りが k5, q2 に接続する場合も同様に y を無標とみなす。ただし、[伊謬切] は類相関により iw となる。cf. 侵, 緝

重唇音への接続、類相関、之との関係から、蒸, 職の綴りは p4, w に接続する場合は yn, yk、それ以外を iun/yun, iurk/yurk とする。ただし、[綺競切] は類相関により khyn となる。廣韻以降を記述対象とした為、[於力反] と [於棘反] の対立は扱わない。

溪での対立の可能性、聲符「凡」と上古侵部の関係 (王念孫の解釈での韻字「汎」によるものを含む)、「汎」と「泛」の関係から、凡, 乏 は 嚴, 業 と音韻的に異なるとみなし、その綴りを yurm, yurp とした。cf. 東^三, 屋^三; 尤, 聲符「尤」

審^生; 照^莊, 穿^初, 牀^崇 に接続する 庚, 陌 について、上古韻部の傾向から、審^生 に接続する 庚 を三等韻、それ以外を二等韻とみなす。

聲母と韻母の組み合わせが記述できないものである場合、近古音などに基づく近似の字音で代用するか、分音による解釈を試みる。

例: “地” [定, 脂, 開, 去] (廣韻 [徒四切], 韻鏡 [開; 舌音, 濁; 至, 四等]), 中原音韻 [帝]

- dèd ([定, 齊, 開, 去] で代用)
- ðid (d に分音記号を付加) cf. 日本漢字音

分音による解釈を採用しながらも分音記号が使えないという場合、本来要求される綴りから分音記号を外す。例: ðid → did


Tyup Kág Ym: Gwyürn-múg

Vatanabe Takàjuki @Segsyoaxafu 2022-06-07

📖 参考文献

	書誌
概説	中村 雅之. “音韻学入門～中古音篇～”. 漢語音韻史の教室. 1998. http://chinese-phonology.com/nyumonkouza.html .
	Schuessler, Axel. <i>Minimal Old Chinese and Later Han Chinese: A Companion to Grammata Serica Recensa</i> . University of Hawaii Press, 2009, (ABC Chinese Dictionary Series, no. 20). eBooks.com, https://www.ebooks.com/en-jp/book/96304289/minimal-old-chinese-and-later-han-chinese/axel-schuessler/ .
	藤堂 明保, 水谷 真成, 平山 久雄, 菊田 正信. “II 音韻論”. 言語 新装版. 牛島 徳次, 香坂 順一, 藤堂 明保 (編). 大修館書店, 2011, p. 33–178, (中国文化叢書, no. 1).
	太田 斎. “韻書と等韻図 I”. 神戸市外国語大学研究叢書. 神戸市外国語大学外国語学研究所, 2013, no. 52, p. 1–258. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00001322/ .
	太田 斎. “韻書と等韻図 II (完)”. 神戸市外国語大学外国語学研究所. 神戸市外国語大学外国語学研究所, 2016, vol. 92, p. 145–246. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002198/ .
	太田 斎. “韻書と等韻図 I/II 補説”. 神戸外大論叢. 神戸市外国語大学研究会, 2017, vol. 67, no. 54, p. 1–28. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002154/ .
	Shen, Zhongwei. <i>A Phonological History of Chinese</i> . Cambridge University Press, 2020. eBooks.com, https://www.ebooks.com/en-jp/book/209931523/a-phonological-history-of-chinese/zhongwei-shen/ .
論文	平山 久雄. “切韻における蒸職韻と之韻の音価”. 東洋学報. 東洋文庫, 1966, vol. 49, no. 1, p. 42–68. 東洋文庫リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1629/00005047/ .
	太田 斎. “蒸職韻、幽韻における重紐の痕跡”. 神戸外大論叢. 神戸市外国語大学研究会, 2021, vol. 73, no. 3, p. 1–65. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002391/ .
原典	韻鏡 (永禄本). 1564. 国立国会図書館デジタルコレクション, https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2532126 .
	“七音略第一”. 通志卷三十六. 鄭 樵 (撰). 1161. 欽定四庫全書 史部. 1781. Internet Archive, https://archive.org/details/06058579.cn , p. 83–138.
	“七音略第二”. 通志卷三十七. 鄭 樵 (撰). 1161. 欽定四庫全書 史部. 1781. Internet Archive, https://archive.org/details/06058580.cn , p. 2–51.
字音	鈴木 慎吾. 諸家先秦兩漢三國韻讀. http://suzukish.s252.xrea.com/search/xianqin/index.php .
	鈴木 慎吾. 漢語上古音検索 (鄭張音). http://suzukish.s252.xrea.com/search/zhengzhang/search_top.php .
	鈴木 慎吾. Web韻圖～廣韻検索～. http://suzukish.s252.xrea.com/search/inkyō/index.php .
	鈴木 慎吾. 切韻諸本輯覽. http://suzukish.s252.xrea.com/search/qieyun/index.php .
	漢字データベースプロジェクト. 宋本廣韻データ. http://kanji-database.sourceforge.net/dict/sbgv/index.html .
	郭 家寶 (alias BYVoid). 韻典網. https://ytenx.org/ .
	臺灣大學中國文學系, 中央研究院資訊科學研究所. 漢字古今音資料庫. https://xiaoxue.iis.sinica.edu.tw/ccr .
Jerry. 古今文字集成. http://www.ccamc.co/index.php .	
字源	優質教育基金, 香港中文大學人文電算研究中心 (alias Humanum). 漢語多功能字庫. http://humanum.arts.cuhk.edu.hk/Lexis/lexi-mf/ .
日本語	沼本 克明. “日本漢字音の歴史”. 東京堂出版, 1986, (国語学叢書, no. 10).
	山田 俊雄. “万葉仮名”. 改訂新版・世界大百科事典. 平凡社 (編). 平凡社, 2007. ジャパンナレッジ (サンプルページ), https://japanknowledge.com/introduction/keyword.html?i=375 .
	全訳 漢辞海 第四版. 戸川 芳郎 (監修). 佐藤 進, 濱口 富士雄 (編). 三省堂, 2017. 辞書 by 物書堂, https://www.monokakido.jp/ja/dictionaries/kanjikai2 .
角川新字源 改訂新版. 小川 環樹, 西田 太一郎, 赤塚 忠, 阿辻 哲次, 釜谷 武志, 木津 祐子 (編). 角川書店, 2017. 辞書 by 物書堂, https://www.monokakido.jp/ja/dictionaries/shinjigen2 .	
越南語	CJKI越日辞典. 日中韓辞典研究所, 井上 寛 (編). 2020. https://ciki.org/samples/vjgv_j.htm .
前提	渡邊 隆之 (alias Vatanabe Takajuki). “原則”. Segsyoxafu. 2021. https://segisyoxafu.wordpress.com/gwensoku/ .

🌿 使用文字

	墨字	数
子音字	b, c, d, g, h, k, l, m, n, ŋ , p, s, t, w, x, z	16
母音字	a, e, i, o, u, ɯ , y	7
被せ音字	ó, ò	2
不使用	f, j, q, r, v	5
代用表記	ŋ → q	
	ɯ → v	
	ó, ò → o	
	Vatanabe Takajuki @Segsyoxafu 2022-06-07	